

連携広報部は、令和2年4月にメンバーが入れ替わり新体制となりました。

急性期病院からの相談を受け、院内の各部署と連携を取り、入院調整を行っています。適切なリハビリテーション治療が迅速に開始できるよう細かな連携をはかり、スムーズに繋げられるよう努めています。

『お待たせしない』『諦めない』をモットーに頑張りますのでよろしくお願いします。



数字で見る小倉リハビリテーション病院

回復期リハビリテーション病棟(158床) すべて入院料1

| 在宅復帰率 | 平均入院日数 |
|-------|--------|
| 86.2% | 80.8% |

| 疾患例入院日数 |
|----------------|
| 脳血管リハ対象者 93.7日 |
| 運動器リハ対象者 58.8日 |

障害者施設等一般病棟(40床)

| 在宅復帰率 | 平均入院日数 |
|-------|--------|
| 93.8% | 139.8% |

| 職員数 | |
|--------------|-----|
| 医師 | 10名 |
| 看護師 准看護師 | 91名 |
| 介護福祉士 介護職 | 45名 |
| 理学療法士 | 73名 |
| 作業療法士 | 53名 |
| 言語聴覚士 | 12名 |
| 社会福祉士 | 12名 |
| 歯科衛生士 | 6名 |
| 管理栄養士 | 5名 |

※ 令和2年7月1日現在

◆当院へのアクセス

JRの場合

「南小倉駅」(日豊本線・日田彦山線)より片野方面へ徒歩10分

バスの場合

「木町二丁目」バス停(ファミリーユサ前)より小倉南区方面へ徒歩10分

都市高速の場合

「紫川IC」清水方面車線出口よりすぐ右側

カーナビでお越しの際は、

NAVI 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1と入力してください。



KR 医療法人 共和会

小倉リハビリテーション病院／介護老人保健施設 伸寿苑／共和会地域リハビリテーションセンター

TEL.093-581-0668(代表) FAX.093-581-3319(共通)

〒803-0861福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1 http://www.kyouwakai.net 共和会 検索



梅津病院長に訊く 「2020年度診療報酬改定と これからのリハビリテーション病院の運営」

REPORT 連携広報室 メンバー紹介



新型コロナウイルス感染症に関して福岡県では5月14日に緊急事態宣言解除がなされました。その後北九州市内で第2波ともいわれる感染再拡大が始まりました。7月に入りようやく落ちつきをみせ始めましたが、今後も感染が潜んでいるわけで常に警戒を緩めることはできません。

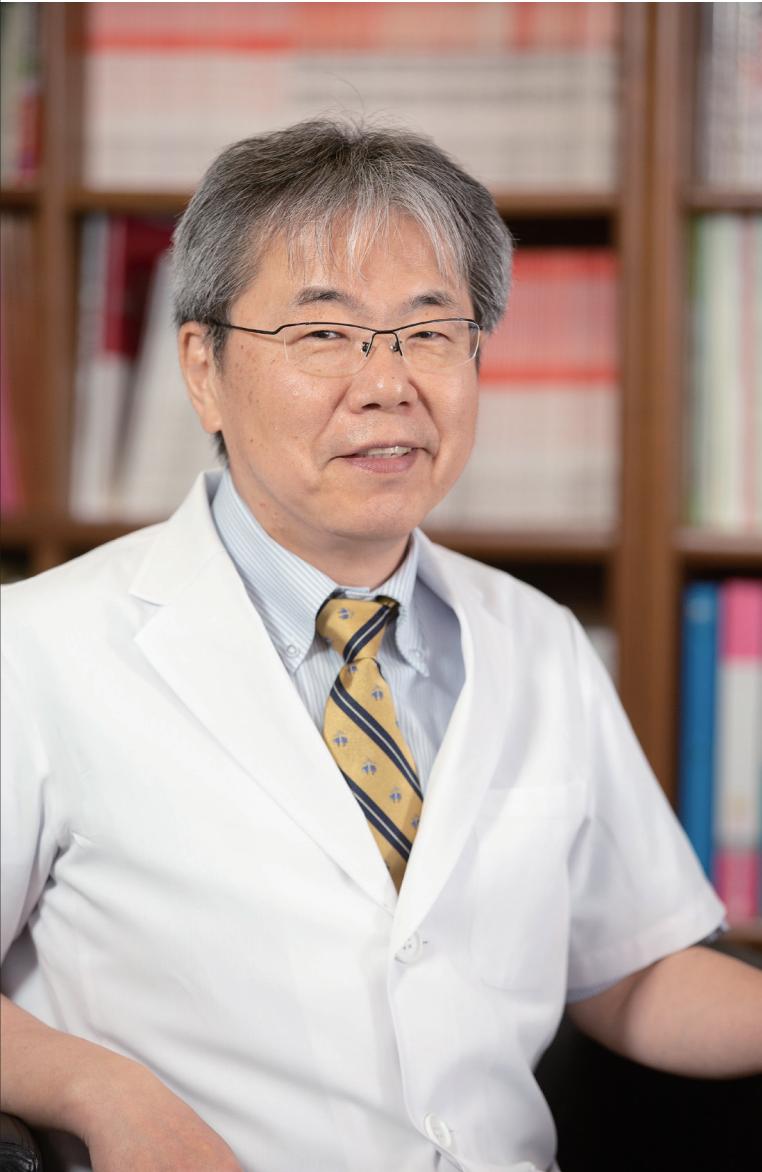
これからは「新しい生活様式」の構築が求められるとされています。これまで私たちは人が集まり、語り、行動していく事を「善し」としてきました。しかしながら現在のソーシャルディスタンスはその真逆にあるもので、これからは人や社会とのつながり方をいかに保っていくか知恵と工夫が試される時代にきたと思っています。

さて、そうしたなかで作成したケアライン夏号、本年4月に実施された診療報酬改定について梅津病院長にインタビューを行いました。今回の改定では私どもが主軸としている回復期リハビリテーションにおいてアウトカム評価の重要性が示されたわけで、入院前から地域の生活につなぐまでの一連の関わりをよりチームで取り組む必要性が示されました。制度改定の概要から運用、さらにはコロナ時代における私たちの役割について伺っています。ご一読下さい。

暑さ厳しき季節となりますがどうかご自愛ください。

令和2年7月
医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 連携広報部長 井上 崇

「2020年度診療報酬改定と これからのリハビリテーション病院の運営」



梅津 祐一(うめづ・ゆういち)

医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院院長

昭和61年産業医科大学医学部卒業と同時にリハビリテーション医学講座に入局、平成4年産業医科大学大学院修了、医学博士、リハビリテーション専門医取得、愛媛労災病院、聖マリア病院、久留米大学を経て平成19年小倉リハビリテーション病院に入職、平成25年4月より現職

新型コロナウイルス感染症の拡大により世界中が混乱し半年近くが経とうとしています。こうした渦中で4月には診療報酬の改定が行われました。私どもリハビリテーション病院の運営においては大変重要な改定でした。そこで当院院長に今回報酬改定の内容、さらにはこうした感染症蔓延下における私達の役割について話を伺いました。

短い入院期間で可能な限りの改善を求めていく

今回の診療報酬はそれほど大きな変化はなかったと思いますが、要件自体は改定の度に厳しくなっていると感じました。直近3回の改定を振り返りますと、「実績指標」という指標、これが回復期リハ病棟入院料の基準となるわけですが、前回改定時に3段階から6段階となりました。特徴として短い入院期間で可能な限り改善することが求められるようになりました。

機能改善と能力向上... 入院と同時に自宅へ帰る準備を開始

当院では全病棟が回復期リハ病棟入院料1を算定しているが、今回改定からその実績指標の基準値が37から40になりました。これは今回改定の大きな動きでした。このことにより身体的機能や精神活動ができる限り効率よく目標に到達させるプログラムをたて実施していくねばなりません。またきめの細かいプログラムの変更・修正をしていくことで、できるだけ早く機能障害を改善し生活能力の向上を図っていかねばなりません。さらに早い段階から自宅に帰る準備を行っていきます。帰る準備が遅くなれば、機能があがっても自宅に帰るには時間が必要なため、これらを同時に進行していく必要があります。

interview



急性期病院との連携が課題

急性期病院からは今までよりも早い(治療)段階で入院されることが多くなりました。こうしたことから急性期病院での全身管理を転院前の段階で理解し引き継ぐことが重要となってきました。これら動きの中では連携が重要な課題となってきます。私どもではこれまで医師が急性期病院に訪問し直接診させて頂くという「FACE TO FACE」の連携を行ってきましたが、残念ながら感染予防の観点からそれができなくなりました。現状、電話や書面上のやりとりで患者さんをお受けしていますが、こうした状況の中でも何とか連携をスムーズに行い受け入れていきたいと考えています。

ポストコロナ…工夫をしていく

感染予防の原則は三密の環境にならないこと、ソーシャルディスタンスの確保などですが、リハビリテーションの治療現場はその状況が避けられないものです。日常のケアや機能訓練においても患者さんに触れたり、傍で接することで治療をしていくといった診療です。ソーシャルディスタンスをとってどのように取り組んでいかか大きな課題に直面しており、職員全員で工夫していくかねばなりません。ポストコロナ…今(感染対策として)様々な経験していることを大きな学びとしていくことが大切です。例えば接することをできるだけ少なくするにはどのような工夫が必要か、どのような道具を使えば良いのかなど考えていかねばなりません。そしてこうした取り組みをふまえより質の高いリハビリテーションにつなげていくことが求められています。

共和会の活動は地域にある

最後に法人全体の大きな役割の一つとして、地域貢献活動やプロボノ活動があります。伝統的に共和会の売りとなっています。しかしながらコロナウイルス感染拡大で患者さんも(感染が怖くて)なかなか外に出られません。今の段階では患者さんの現状を正しく把握したうえで皆さんの生活を支える活動にいち早く結びつけなくてはならないと考えています。厳しい状況ですが、感染予防を徹底しながら今できる最大の活動を模索し、少しづつ元の生活を取り戻していかねばなりません。職員にもそうした思いで取り組んで頂きたいと期待しています。

